

課題は弾力型都市づくり



左から浅井、城戸、松野の各氏

突然の集中豪雨、異常気象。各地で地震も頻発する。「最近は何か変だ」と感じる自然災害だけでなく、都市ではヒートアイランド現象、密集市街地問題など安全を脅かす課題が数多く残る。日本経済新聞社広告局はこのほど東京都内で日経ビジネスイノベーションフォーラム「今、都市は安全か!—都市再生のこれから—」(協賛=

独立行政法人都市再生機構)を開催した。国連環境計画の末吉竹二郎氏が「日本の都市再生と環境整備」と題する基調講演で、低炭素対応型都市を創造する必要性を強調し、識者によるパネルディスカッションでは「災害に強いまちづくりとは—これから求められる都市づくり」をテーマに多面的な意見が交わされた。

基調講演

日本の都市再生と環境整備—温暖化時代の都市の在り方—

国連環境計画 金融イニシアチブ特別顧問 末吉 竹二郎氏



温暖化対応の都市づくりでは、台風が襲っても大丈夫な頑丈型にするか、それともある程度の被害を想定し、万一大きな被害が出て素早く立ち直れる弾力型にするかの議論がある。温暖化時代の都市

地球温暖化はさまざまな災害を都市にもたらす。台風が直撃すればライフラインが破壊され、エネルギー・食糧・水の寸断のほか、交通の混乱や水難事故も発生する。温暖化の脅威はこ

新たな都市づくり・都市再生は 未来志向のビジネスチャンス

うした災害だけでなく、熱中症や感染症の増大、そして生態系に影響を及ぼすまでに深刻化している。

すべしとした環境対応の都市づくりの成功例では、ドイツのフライブルグが取り組んだ「パーク&ライドシステム」がよく知られている。通勤の際に郊外に車を置き、オフィスのある都市心には公共交通機関を利用するというものだ。大都市ではニューヨーク市が人口増加やインフラの老朽化に対応して二〇三〇年までにCO₂の排出を三〇%削減する新しい都市づくりの行

パネルディスカッション

災害に強いまちづくりとは—これから求められる都市づくり—

——首都圏など大都市に潜む脆弱(ぜいじゃく)性の問題点から指摘いただきたい。



浅井 氏

この夏、豪雨が突如東京を襲い、世田谷の我が家でも排水ポンプが間に合わず地下の床に水が浸みできて、ちょっと慌てた。気候変動で都市が予測していた雨量をはるかに超える状態となり、それが身の回りでも起きて、東京もそういう都市になってきたと気がつかれる経験だった。同じ区内でも豪雨と晴れているところがある。いろいろな複合的問題があるにしろ、明らかに人間の活動によって環境が変わりつつあって、東京もそれに大きく左右され始めていることを実感している。

ひばりが丘「消すべき重点密集地域としては、通常の緑に加えて、阪で各二千軒を指定し、雨水を活用し、整備を促進することで市街地の大規模な延焼を防止し、最低限の安全性を確保しようとするものだが、複雑な権利関係、地方公共団体の財政上の課題などもあり、なかなか難しい問題である。当機構は、これまでのノウハウを基に地方公共団体を支援し、密集市街地の整備を進めてきた。その

景観問題など環境整備についてはどうか。

区は歴史、風土などの特性を読み解き、周辺の都市環境との調和や連携に配慮している。「芝浦アイランド」では、ガイドラインの中で、個々の建物デザインに至る詳細なデザインコードを策定した。また「東雲キャナルコートCODAN」では、コンペで選ばれた建築家を起用し、十四階以下の住棟構成で、超高層並みの高度利用を実現し、都心居住の新しい形を提案した。

コンセプトのある都市整備を

浅井 氏

つめ直し、風の通り方など日本の気候を考えた上で東京という町を、きちんと設計し直す時期なのではないかと思う。

松野 当機構では、阪神・淡路大震災などの震災復興に取り組んできたが、一方でそのような災害を未然に防ぐための密集市街地の整備改善に取り組んでいる。国でも密集市街地問題を都市再生プロジェクトに位置づけている。緊急に解

に緊急車両が入れるよう最低限整備が必要と思う。下町は治安が大変いい。地域づくりも安全を高める一つの方法と言えらるだろう。

松野 当機構も都市の美しさを考えながら、まちづくりに取り組んでいる。最近では民間事業者と共同でまちづくりを行うことが多くなったので、景観ガイドラインを作成し、地域や地

を進めることが肝要。開発に当たっては短期主義をやめて長期主義で考える。具体的には二十年後、三十年後、五十年後の目的地をきちんと定め、その間に何をすべきかをあらゆる分野の専門家が集まって物事を総合的に見ながら都市の在り方を考えることが大変重要である。

写真家 浅井 慎平氏
洋画家 城戸真亜子氏
独立行政法人 都市再生機構 (UR)都市機構 理事 松野 仁氏

城戸 戦後六十年以上たつて、何かまち全体が老朽化してきたことを実感する。先日も駅前の地盤が突然沈下し地面が落ちてパイ

松野 UR都市機構は、大都市でのヒートアイランド対策などを積極的に進めている。足立区の「ハートアイランド新田」地区では、荒川と隅田川に囲まれた立地特性を生かして「風の道」を考えた住棟配置を行い、住戸内でも風を取り入れる設計とし、冷房負荷の軽減に努めている。また、屋上緑化にも取り組んでおり、当機構では一九九四年度以降、累計で十三万一千平方メートル(東京ドーム約三分)を完成した。西



浅井 防災の面でもそうだが、部分的にすべ対応しなければならぬこと、時間をかけないと再構築で

最後に今後の望ましい都市像についてお話ししたい。最後に、生き方、人間を考へることにつながる。それはつまり、生き方、人間を考へることにつながる。それはつまり、生き方、人間を考へることにつながる。

企画・制作 日本経済新聞社広告局